

Summit Client Utility の使用方法

➤ はじめに

Summit Client Utility (SCU) は Summit 無線モジュールを使用するモバイルデバイスのエンドユーザと管理者のために設計されたアプリケーションです。SCU には無線設定、セキュリティ設定、及びステータスの確認や通信障害時のトラブル解決等の用途に利用されます。SCU を使用して、エンドユーザは以下の操作ができます。

- 設定プロファイルの内容を表示します。設定プロファイルは無線の設定、セキュリティ情報等が含まれません。
- 各設定に適用されているグローバル設定を表示します。
- 現時点の無線通信の状況を確認できます。
- 無線、アクセスポイント、あるいは接続されている WLAN ルータ、無線接続、またはリンクのステータス情報を表示します。
- 接続または性能についてのトラブルを解決するために、接続と無線についての診断情報を表示し、各種のトラブルシューティングと診断テストを実行します。
- ソフトウェアバージョンやドメイン設定等、無線設定以外の情報を表示します。

本書では以下の内容を説明します。

- SCU 内の Main、Profile、Status、Diags、Global タブ画面における詳細情報
- Summit System Tray アイコンの使用法

➤ Summit Client Utility に触れてみる

SCU はグラフィックユーザインターフェース (GUI) により全ての機能を操作できます。

SCUの初期化方法:

- スタートメニューからプログラムを選択します。
- Summit ディレクトリを選択します。
- Summit ディレクトリには二つの項目があります: セキュリティ認証を保存するディレクトリと SCUアイコンです。SCUを実行するには、SCUアイコンをダブルタップします。

SCU は 5 つのウィンドウ: Main、Profile、Status、Diags、Global タブがあります。タブは図 1 の下部に示されています。各ウィンドウを簡単に切り替えることができます。各ウィンドウは以下のセクションで詳しく説明しています。

Main ウィンドウ

図 1 は、Main ウィンドウの例です。項目は以下の通りです。

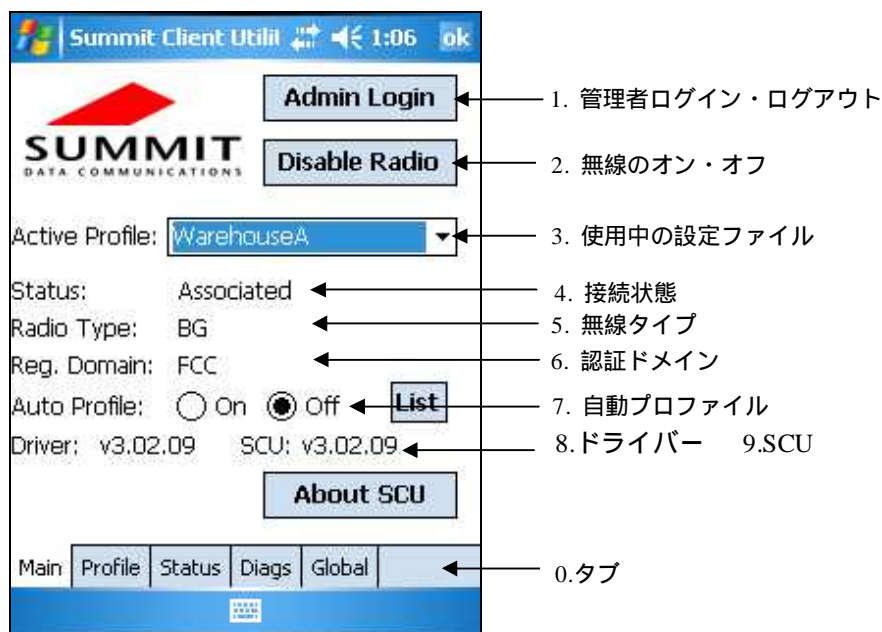


図 1: Main ウィンドウ

Main ウィンドウ構成を表 1 に示します。

表 1: Main ウィンドウ構成

	項目	説明
1	管理者ログイン・ログアウト	『Admin Login』をタップ後、ダイアログボックスに管理者パスワードを入力します。 <u>パスワードの標準値は英大文字で“SUMMIT”です。</u> (パスワードは Global Settings ウィンドウの「Admin Password」機能で変更することができます。) 管理者モードにログイン後に再度タップでログアウトし、ユーザモードに切り替わります。
2	無線のオン・オフ	無線が有効の場合、『Disable Radio』をタップして無効にします。 無線が無効の場合、『Enable Radio』をタップして有効にします。 注:無線が有効時には、アクセスポイントへ接続しようとし続けます。無線が無効時には、アクセスポイントへの接続は行ないませんが無線モジュールの電源自体は ON の状態です。
3	使用中の設定ファイル	ユーザモードの場合、使用されている設定ファイル名を見ることができます。管理者モードでは他の設定を選択するために選択リストを使用することができます。

4	接続状態	無線の電波状況及び、接続状況を示します。 以下のステータスが存在します。	
		Down	SUMMIT が無線(Radio)を認識していません。
		Disabled	無線が無効になっています。
		Not Associated	無線がアクセスポイントとの接続を確立できません。
		Associated	アクセスポイントとの接続を確立済みです。EAP 認証は行なっていません。アクセスポイントへの接続が確立済み且つ EAP 認証済みでなければ無線は通信できません。 注:暗号化タイプを「WEP」又は「none」を選択している場合はこの状態で通信が可能です。
		<EAP type> Authenticated	EAP 認証が成功し、正常に通信が行なえる状態です。
5	無線タイプ	使用可能な無線 LAN タイプが表示されます。例えば「BG」と表示されている場合は、IEEE802.11b または IEEE802.11g に対応となります。	
6	認証ドメイン	FCC、ETSI、TELEC や KCC など無線が設定されているドメインを示します。	
7	ソフトウェアバージョン	デバイスドライバとデバイスで実行している SCU のバージョンを表示します。	
8	ドライバー	現在のデバイスドライバのバージョンです。	
9	SCU	現在動作している SCU のバージョンです。	

Profile ウィンドウ

Profile 設定とはそれぞれのプロフィールに登録されている無線やセキュリティ設定を意味します。管理者モードでは設定の閲覧だけでなく機能や設定の変更も可能です。

図 2 は、Profile ウィンドウの例です。項目は以下の通りです。

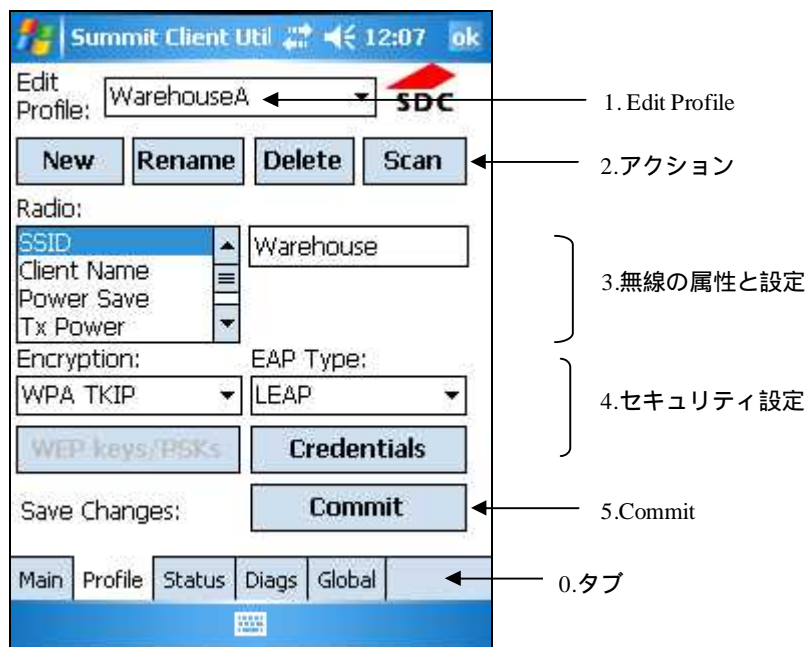


図 2: Profile ウィンドウ

Profile ウィンドウ構成を表 2 に示します。

表 2: Profile ウィンドウ構成

	項目	説明
1	Edit Profile	設定ファイルの表示または編集 (管理者の場合) のために選択します。 “ThirdPartyConfig” が選択された場合、電源のオフ・オンが行われた後で、WZC (Windows Zero Config) が無線の設定に対して使用されます。
2	アクション	管理者に 4 つのアクションがあります。 -New: 標準設定で新しい設定ファイルを作成し名前を付けます。 (作成後、ウィンドウで各選択を使用して設定を変更します。) -Rename: 設定ファイルの名前を変更します。 -Delete: アクティブになっていない設定ファイルを消去します。 -Scan: 無線電波状況を確認できます。スキャンした SSID を選択し、profile の作成や編集も可能です。
3	無線の属性と設定	ユーザモードの場合、使用されている設定ファイル名を見ることができます。管理者モードでは他の設定を選択するために選択リストを使用することができます。

4	セキュリティ設定	<p>管理者が EAP タイプ (802.1X 認証の使用) と暗号の設定をすることができます。</p> <p>Summit 無線 LAN を一般的な業務用 WLAN に接続する場合、SSID の指定、EAP タイプ、そして無線 LAN でサポートされている暗号タイプの選択をしなければなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SSID: 無線 LAN の名前 • EAP type: デバイスの認証に使用されるプロトコル、そしてユーザが WLAN の Wi-Fi Protected Access (WPA) と WPA2 のエンタープライズバージョンを使用する場合、SCU は 4 つの EAP タイプ: PEAP with EAP-MSCHAP (PEAP-MSCHAP)、PEAP with EAP-GTC (PEAP-GTC)、LEAP、そして EAP-FAST をサポートします。 • Encryption: 送信するデータの暗号化と解読に使用するキーのタイプとキーの指定あるいは得る方法を指定します。暗号化オプションは以下を含んでいます。 <ul style="list-style-type: none"> - WPA2 または WPA ダイナミックキー付き (EAP 認証プロセスから得る) - WPA2 または WPA 共有キー付き - 静的 WEP キー
5	Commit	ウィンドウで行った設定変更を保存します

Status ウィンドウ

StatusウィンドウはPDAと接続を確立済みのアクセスポイントとの無線接続状況を確認できます。

図 3 は、Status ウィンドウの例です。項目は以下の通りです。

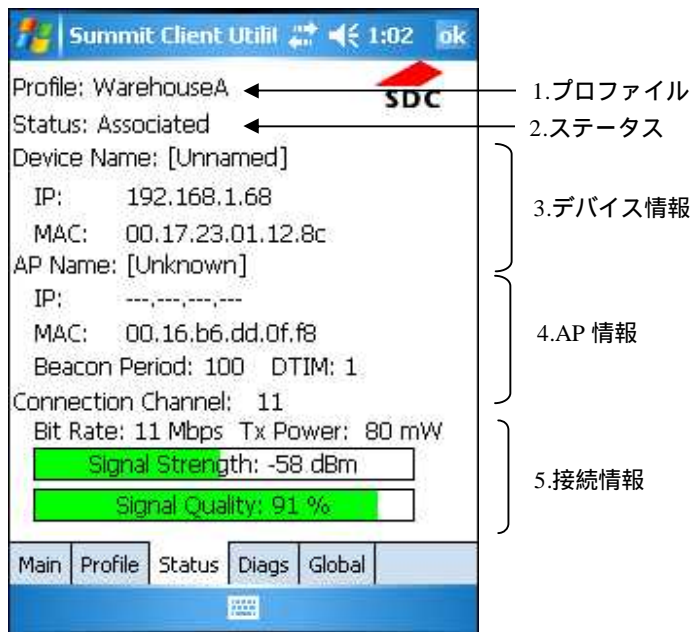


図 3: Status ウィンドウ

Status ウィンドウ構成を表 3 に示します。

表 3:Status ウィンドウ構成

	項目	説明
1	プロファイル	現在のプロファイルです。
2	ステータス	無線の電波状況及び、接続状況を示します。 ステータスは main ウィンドウでも表示されます。ステータスの詳細は表 1Main ウィンドウの接続状態を参照して下さい。
3	デバイス情報	IP アドレス、MAC アドレス、デバイス名を表示します。
4	AP 情報	接続しているアクセスポイントの情報 (IP アドレス、MAC アドレス、アクセスポイント名) を表示します。
5	接続情報	信号強度: グラフと数値で信号強度を表示します。 接続情報: チャンネル、送信電力、転送速度を表示します。

Diags ウィンドウ

Status ウィンドウは SCU の接続障害のトラブルシューティングを行います。

図 4 は、Diags ウィンドウの例です。項目は以下の通りです。

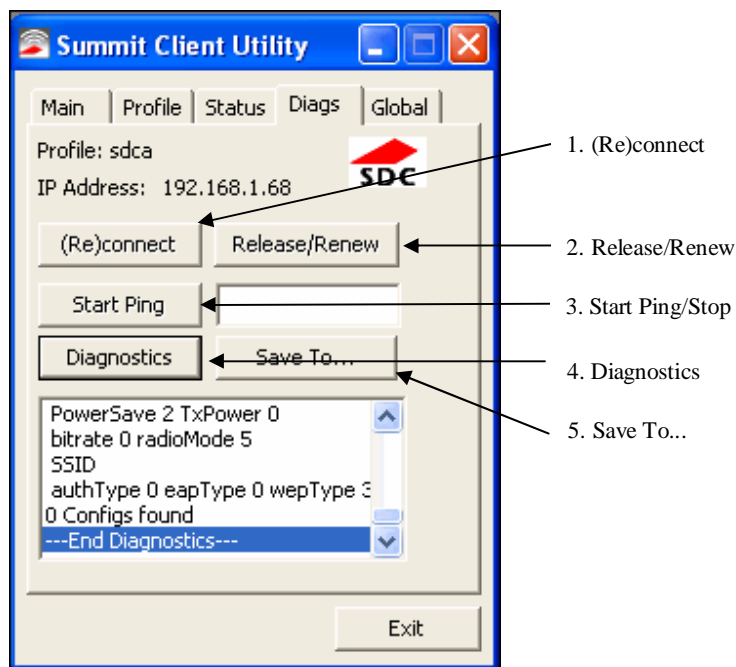


図 4: Diags ウィンドウ

Diags ウィンドウ構成を表 4 に示します。

表 4: Diags ウィンドウ構成

	項目	説明
1	(Re)connect	無線をオンまたはオフします。現在の設定を適用あるいは適用せず、そして無線 LAN に接続と認証を試み、下部の出力エリアにすべての動作を記録します。
2	Release/Renew	DHCP を通して新しい IP アドレスを得ます。下部の出力エリアにすべての動作を記録します。
3	Start Ping/Stop Ping	右の edit ボックスに入れられた IP アドレスに連続して Ping を行います。ボタンがタップされたら、ボタンの名前と機能は Stop Ping(Ping 終了)に変わります。他のウィンドウに切替え又は SCU を終了又は、無線を無効にすると Ping も終了します。
4	Diagnostics	アクセスポイントへの接続を試み、(Re)connect で得られるより多くの診断結果データを提供します。データは無線の状態、設定、グローバル設定とアクセスポイントの BSSID リストを含みます。
5	Save To...	保存したい診断結果ファイルを指定します。 『Save To..』をタップすると保存用ウィンドウが表示され、保存先やファイル名の変更が可能となります。

Global Settings ウィンドウ

Global settings は以下を含んでいます:

- すべての設定ファイルに適用する無線とセキュリティ設定
- SCU 自身に適用する設定

管理者は SCU の Global Settings ウィンドウでほとんどのグローバル設定の定義と変更をすることができます。

図 5 は、Global ウィンドウの例です。

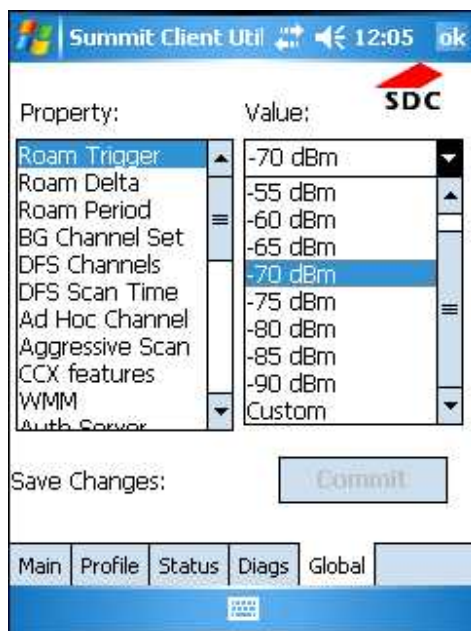


図 5: Global ウィンドウ

各グローバル設定の標準値はほとんどの環境で信頼度の高い運用がなされるように設定されています。項目は以下の通りです。それぞれの設定詳細は以下の URL より確認して下さい。

http://www.summitdatacom.com/Documents/Glossary/index.html?summit_glossary_r#roam_trigger

- | | | |
|------------------|---------------------------------|-------------------------------|
| ・Roam Trigger | ・Auth Server | ・Admin Passwords (Admin Only) |
| ・Roam Delta | ・TTLS Inner Method | ・Auth Timeout s |
| ・Roam Period | ・PMK Caching | ・Certs Path |
| ・BG Channel Set | ・Tx Diversity | ・Ping Payload |
| ・DFS Channels | ・Rx Diversity | ・Ping Timeout ms |
| ・DFS Scan Time | ・Frag Thresh | ・Ping Delay ms |
| ・Ad Hoc Channel | ・RTS Thresh | |
| ・Aggressive Scan | ・LED | |
| ・CCX features | ・Tray Icon | |
| ・WMM | ・Hide Passwords Aggressive Scan | |

Summit System Tray アイコンを使う

SCU はウィンドウズ・システム・トレイ上にアイコンを表示します。このアイコンは無線デバイスのステータスや SCU アプリケーションの接続状態を示します。

図 6 は、Summit System Tray アイコンの例です。項目は以下の通りです。



図 6: Summit System Tray ウィンドウ 注:SCU を起動するにはアイコンをタップします
以下の条件下でのみ SCU サービスは動作し、アイコンが表示されます。

- SUMMIT モジュールがデバイスに取り付けられている、又は外部スロットに取り付けられている。
- そのデバイスが有効となっている。
- 802.11b Windows Zero Config (WZC)が有効となっていない。
- SCU Tray Icon global setting がオンになっている。

SCU Tray アイコン構成を表 5 に示します。

表 5:SCU Tray アイコン

	アイコン	説明
1		アクセスポイントに関連付けられていないか認証されていません。
2		アクセスポイントとの信号強度が-90dBm かそれ以下の場合、無線 LAN タイプ 802.11b/g は 802.11b データ速度として動作します。
3		アクセスポイントとの信号強度が-90 ~ -70dBmの場合、無線 LAN タイプは 802.11b/g として動作します。
4		アクセスポイントとの信号強度が-70 ~ -50dBmの場合、常に 54Mbps の設定で動作します。
5		アクセスポイントとの信号強度が-50dBm より強いことを示します。